学苑会中執
委員長 炭谷久雄

No.9
S44.4.30

学苑会通信

全二部に安保論争のうずを
各クラス・サークルに安保論争を！

4・30連合教授会団交に結集せよ！

4.28安保粉砕、沖縄解放闘争の成果で連合教授会団交を闘いぬけ！

全ての学友諸君！連合教授会団交に結集しよう！

四、二八沖縄解放斗争は文字通り、全学連革命派を先頭とする、革命的青年労仂者の固い連帯のもとに、銀座周辺を解放区としてかちとることによって勝利的前進を押し進めた。

四、二八斗争は十、八以後革命的学生が切り拓いた斗いの質を文字通り反戦青年委員会を中心とする青年労仂者に継承することによって、学生運動が革命運動における一方面隊としての任務をはっきりと実証した。七〇年安保を焦点とする、七〇年代階級斗争は革命の本隊、労仂者によって指導される斗いとしてはっきりと確認することができる。全国学園斗争は、日本階級斗争の重要な一角をなしているし、さらにこの斗いを押し進めることが、安保粉砕、沖縄解放の戦略スローガンのもとに斗われる日本階級斗争の前進につながるのである。

4.30団交の意義は何か？

四、三〇連合教授会団交は、四月十二日の機動隊乱入に端を発しその継承としてある。我々は、本日の団交においてはっきりと学校当局と学生のちがいを明らかにしなければならない。その根底的な違いであるところの大学の自治＝教授会の自治なる幻想を打ちくだき、そこから規定されてくる全ての文部省末端权力である学校权力を粉砕しなければならない。階級社会における教授会の幻想は、今日の大学斗争の根底的な総括がなしえないが故に、大学の自治に執着し、一方において权力との前面対決をせずして权力の介入を拒否しようとしている。「自治」とは、そこに住む人たちの文字通りの「自治」であり、これに対して一切の权力を拒否すべき物理的意味をも前提とする内容でなければならない。权力との斗いなしに、自治はありえないし、今日の日本資本主義社会のどこにも自治などは存在しないし、ましてやブルジョア社会に奉仕すべき内容として規定されているブルジョア教育である大学には、自治は、ありもしないのである。

教授諸氏が自治があるというならば、明確に答えてもらいたい。しかし、自治なるものがないが故にこの二日間の団交において、答えることができなかった証しであろう。

我々は文字通り、階級社会における学問教育の階級性の暴露を徹底的になさねばならない。現在の突出している矛盾は寮、学館、農学部、学生部問題は、それが根底にあるが故にあらわれざるをえないのである。

全国大学斗争は、ブルジョア教育秩序を解体すべき、永続的な斗いとして提起されている。明大斗争も、はっきりと帝大解体の戦略スローガンのもと、寮・学館・農学部・学生部問題を媒介としつつ日本階級斗争の一角を荷う永続的な普遍的な斗いとして斗いとっていかなくてはならない。